

シルバーとチビっ子 親しく競演

地域交流と文化の祭典開催

音楽や踊りを通じて地域と交流を深めようという「地域交流と文化の祭典」が2月19日、カレッジホールで行われました。グループわ・文化部会が総力で取り組んだ初の試みで、14クラブと地元から2グループが参加。見事なパフォーマンスにホールは終日、拍手・歓声に沸きました。ロビーでは3クラブが折り紙・絵手紙・書を展示、参加者の目を楽しませてくれました。（16面・トピックスに関連写真）

10時過ぎ、ハワイアンズの軽快なリズムで幕開け。民謡・舞踊・合唱・紙芝居・銭太鼓・マジックなど16の演目が休憩なしで演じられ、午後3時には南京玉すだれで幕を閉じました。どの演技も熟練ぶりがきわだち、「シルバーパワー健在」をアピールしました。

地元の2団体が奮闘

それにも増して、会場を圧倒したのは特別参加してくれたチビっ子2グループ。「泉台よさこいチーム」は小学生ばかり15人が出演。歌い、叫び、鳴子をならし、舞台狭しと踊りまくるビートダンス。「アジアの海賊」など3曲を見せてくれました。メンバーは80人もいて、舞台にも慣れているのか「あがらんかった。楽しく踊れたよ」（小5女子）とあっけらかんと話していました。



「どどみみくらぶ」（星和台）は園児や小学生、お母さんたちがいろんな楽器演奏を楽しむチーム。この日も、25人がハンドベル・マラカス・木琴・鉄琴・トライアングル・タンバリン・ピアノなど十数種の楽器を使って「となりのトトロ」など4曲を懸命に演奏してくれました。タンバリンの園児は「おもしろかった。見てくれてありがとう」と。



客席で盛んな拍手をしていた、あるクラブ員は「かわいいね。孫の学芸会を見ているみたい。躍動感あふれる演技や懸命に演奏する姿には大いに刺激をうけた。われわれも、もっと練習しなくちゃ」と興奮気味でした。ただ、残念だったのは客席が半数くらいしか埋まらなかったこと。近隣はむろん、在校生へのPRが充分でなかったのが響いたようです。

この祭典は、福祉医療機構からの助成事業なので、「地域とのふれあい」「子どもや高齢者の健康増進」が目的です。それだけに、地元グループからの出演者探しに文化部会のスタッフは1月中旬まで奔走。舞台設営やりハーサルもばたばたの状況でした。

「手応えは上々だった」

舞台終了後、やれやれといった表情の小林精一・部会長に感想を聞いてみました。「初回としてはまずまずの手ごたえ。企画が持ち上がったのが秋になってからなので、準備やイベントのPR期間が少なかった。運営面や出演者の選定は、クラブ側の協力で順調にいった。今回、北区の子供たちが参加してくれたが、もっと広い地域から出演者を勧誘できるかどうか、が課題でしょう」。西田圭一理事長も「来年度も開催し、もっと多くの子供たちに参加してもらったり、見に来てもらったりできるように努力したい」と意欲的でした。

【出演・展示グループ】（順不同） SCハワイアンズ、KSC民謡クラブ、新舞踊クラブ、ボランティアグループわらべ、混声合唱団コーロKSC、KSCハワイアンフラ、大正琴プリムラ、コーラス・タルミ、おはなし糸車、手話コーラス同好会、KSC男声合唱団、KSCマジッククラブ、楽遊クラブ銀雅、一寸奉仕、絵手紙G、書道部、折り紙G悠々（写真＝ロビーでの作品展示④と客席風景＝渡邊佳視撮影）（広報・南形徹）